

TOPICS
1「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」
JSPS伴走チームによる岡山大学サイトビジットを開催

本学は長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の達成のため、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」事業において、イノベーション創出によるWell-being社会の実現に取り組んでいます。今回は1月17日に事業の進捗状況の確認や課題を把握するために開催された日本学術振興会（JSPS）の伴走チームによる岡山大学サイトビジットについてご紹介します。

執行部との意見交換会では、本学担当サポーターである名古屋大学の藤巻朗副総長（教育・留学生担当）からの事前質問・確認事項について那須保友学長と本学J-PEAKS担当者・リエゾンの佐藤法仁副理事・副学長・上級URAから回答。その後、活発な意見交換が行われました。



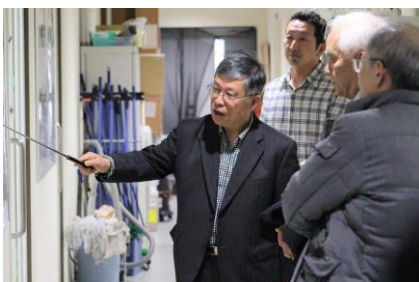
参考：文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の採択

https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r5/press20230524-1.pdf

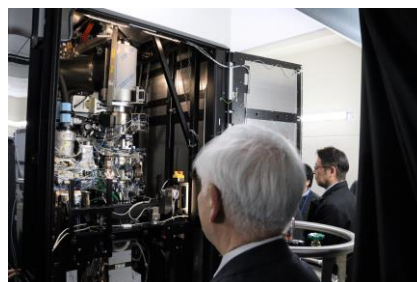


https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r5/press20230524-1-2.pdf

執行部との意見交換会後は、J-PEAKS事業を推進している取組拠点の視察および文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の採択により本学津島キャンパスに建設中の共創イノベーションラボの視察などを行いました。



植物・光エネルギー開発拠点の
説明をする沈拠点長



クライオ電子顕微鏡の視察



クライオ電子顕微鏡が設置されている異分野基礎科学研究所



建設中の共創イノベーションラボの視察の様子

さらに、本学鹿田キャンパスに移動し、国家戦略特区「デジタル田園健康特区」に指定されている岡山県吉備中央町を含めた「共生型連合体」の取り組みなどを中心とした、デジタルの力を活用した医療制度改革と社会変革の取り組みについて説明。VRを活用したドクターカーの教材や実際のドクターカーの視察など、特区を活用した社会変革の取組について紹介と意見交換を行いました。



取り組みの説明の様子



エコーについてのVR教材の体験



ドクターカー視察の様子



ドクターカー内でのエコー体験



総括を述べる藤巻サポーター



集合写真

○那須保友学長のコメント

サイトビジットにお越しいただいた主席サポーターの濱口道成先生、担当サポーターの藤巻朗先生、そして各大学リエゾンや文部科学省、日本学術振興会の皆さまに厚く御礼申し上げます。また素晴らしい対応を見せてくれた本学事務の皆さんに深く感謝いたします。

今回のサイトビジットは、先日の文部科学省シンポジウムなどにおける発表を中心に、本学で進めている組織・制度改革を中心にお話させていただきました。J-PEAKSは大学が変わり、社会変革を成すきっかけであり、そして何よりも社会変革という変化を成そうとする組織（大学）が自身の痛みを伴う変革なくして、社会変革の実現も研究大学への昇華もあり得ないと考えています。今後、イノベーション創出のなどの取り組みについてしっかりサポーターの先生方と情報交換を進めていき、私たちのビジョンの実現を成し遂げたいと思います。

岡山大学は今回のサイトビジットでの知見も得て、どんどん変わっていきます。どうぞ地域中核・特色ある研究大学：岡山大学の挑戦にご期待ください！

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13955.html



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



J-PEAKS
世界に誇れる
研究大学の山脈を築く

TOPICS
2

地域での連携を通じた研究力強化・課題解決などの可能性について考える「研究基盤・研究力向上に関する意見交換会」を3大学・1高専で開催

大阪大学豊中キャンパスで、大阪大学、大阪公立大学、奈良工業高等専門学校とJ-PEAKS事業、各機関における機器共用事業、研究活動の基盤物資である液体ヘリウムリサイクル事業、それらに関連する産学官連携等の取り組みについての意見交換会を実施しました。

中四国・播磨地域の国立大学・私立大学・高専・研究機関を中心とした液体ヘリウムリサイクル構想についても、すでに大阪大学・奈良工業高等専門学校の間で進められている液体ヘリウムリサイクル事業を参考に意見を交換しました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13979.html

TOPICS
3

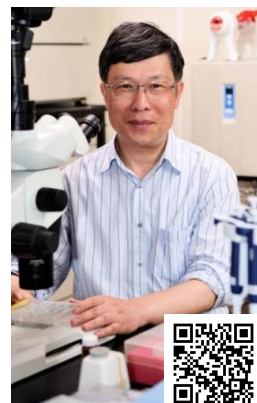
高等先鋭研究院・異分野基礎科学研究所の沈建仁所長・教授が「小林賞」の受賞者に決定

本学の高等先鋭研究院を構成する機関のひとつである異分野基礎科学研究所の沈建仁所長・教授が公益財団法人小林財団の「第6回（令和6年度）小林賞」の受賞者に決定しました。

今回、沈所長は「光化学系複合体の構造生物学的研究を中心とした一連の光合成に関する研究」により受賞となりました。

沈所長の一連の研究業績は、天然光合成の機構解明の基礎を作っただけでなく、「人工光合成」における人工触媒の合成に重要な指針を与える国際的に卓越した研究であることが評価されました。

J-PEAKS事業の取り組みの一つである植物・光エネルギー開発拠点は、沈所長が拠点長を務めており、社会変革を成すための研究活動を戦略的に実施しています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13950.html

TOPICS
4

高等先鋭研究院・異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授が光科学技術研究振興財団の「第7回晝馬輝夫 光科学賞」の受賞者に決定

本学高等先鋭研究院・異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授が、公益財団法人光科学技術研究振興財団の「第7回晝馬輝夫 光科学賞」を受賞者に決定しました。

菅教授の「光合成に関わる水分解・酸素発生触媒の構造と機能の研究」に対して、太陽光を用いて自ら水素を得るクリーンエネルギー技術の進展に資することが高く評価され、また、今後の生命科学の進展に大きく貢献することが期待されて、晝馬輝夫光科学賞が授与されました。

菅教授はJ-PEAKS事業の植物・光エネルギー開発拠点の研究特区主任研究者の一人でもあります。今後の活躍にご期待ください！



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13978.html

TOPICS

5

産官学で連携したオールジャパンの人財育成に向けて
「研究基盤EXPO2025」を幹事校として開催

本学の総合技術部は、「研究基盤EXPO2025」を津島キャンパス創立五十周年記念館において開催しました。

「研究基盤エコシステム～先端研究設備・機器の整備、人財、利活用、開発の好循環とは～」をテーマとし、初日はオンライン参加を含め490人が参加し、我が国の研究基盤を支える技術人材について議論を深めました。

今後も技術職員の連携を深めるとともに、ネットワークを活用したキャリア形成やスキルアップなどの強化推進を行います。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14019.html

TOPICS

6

総合技術部&PMI日本支部「プロジェクトマネジメント
基礎研修」の学習証明オープンバッジ授与式を開催

本学は、昨年3回実施した「プロジェクトマネジメント基礎研修」の修了者に学習証明として授与されるオープンバッジの授与式を開催しました。

授与式後にPMI日本支部との連携について意見交換が行われ、今後の活動について議論を深めました。

今後も教育・研究活動などのパートナーとして頼れる技術職員、そして自らの知識と知恵で新しい価値を創造していけるナレッジワーカーとなれるようにさまざまな取り組みを戦略的に実施していきます。



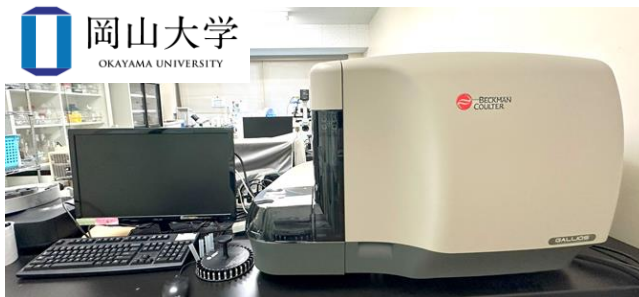
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14020.html

イチオシの研究設備

細胞の特性・構成解析に便利な
フローサイトメーター

ベックマンコールター社製フローサイトメーター「Gallios」は、488nm(青)／638nm(赤)他のレーザーを有しており、蛍光抗体を用いて大量の様々な細胞の細胞解析を短時間に行える便利な機器です。生殖補助医療教育研究センター(農学部3号館2階)に設置されている共用機器です。購入から10年が経過しており、修理頻度は高くなっていますが、元気に稼働しており、令和元年～5年度の過去5年間で延べ34研究室1,226人1,720時間の利用を頂いています。

研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル(CFPOU)」から詳細を閲覧できます。



J-PEAKSの取組として、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp